

平成25年度

第13回 碩田中学校区適正配置地域協議会

日時：平成25年10月29日（火）

18:30～20:30

場所：荷揚町小学校 体育館

－ 会議次第 －

I 開会のことば

II 会長あいさつ

III 議事

1 新設校の位置に関する意見の取りまとめについて

2 次回の協議について

3 その他

IV 閉会のことば

Ⅲ 議事

1 新設校の位置に関する意見の取りまとめについて

(1) これまでの協議を踏まえ、3候補地に新設校を建設した場合の意見について

前回の地域協議会では、3候補地に新設校を建設した場合の「特長やアピールポイント」、「必要な対応策」などについて協議を行いました。

これまでの協議を踏まえ、各候補地 20 分程度協議を行う中で、最終的な意見発表を行う。

①荷揚町小学校地

②中島小学校地

③碩田中学校地

(2) 意見の取りまとめについて

2 次回の協議について

3 その他

(1) 今後の日程について

○第 14 回地域協議会の開催

11/26 (火) 18:30～20:30 中島小学校 体育館

○第 15 回地域協議会の開催

12/17 (火) 18:30～20:30 住吉小学校 体育館

碩田中学校区適正配置地域協議会の協議スケジュールについて

開催期日	協議事項	配付資料・視察等	
校区説明会 H24.8/21(火)	・ 大分市立小中学校適正配置基本計画について	8/21 大分市立小中学校適正配置基本計画（抜粋）	
第1回 8/28(火)	・ 地域協議会について ・ 地域住民の懸念に対する取組について		
第2回 10/23(火)	・ 地域協議会規約(案)について	9/25 防災に係る講演会 10/3 小中一貫教育に係る講演会	
第3回 11/20(火)	・ 地域協議会規約(案)について	11/13 碩田中学校区小中一貫教育研究発表会	
第4回 12/20(木)	・ 地域協議会規約(案)について ・ 今後の協議事項について		
第5回 H25. 2/ 5(火)	・ 今後の協議日程等について	1/31 大分市立賀来小中学校視察	
第6回 3/ 4(月)	○ 新校舎の位置について	2/28 福岡市立照葉小中学校視察 3/ 4 各小中学校の面積等の資料	
第7回 4/16(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地震、津波対策等の防災について <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; height: 100px; margin: 10px 0;"></div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中一貫教育について ・ 児童生徒の通学環境について ・ 校舎の機能について ・ 地域コミュニティの形成について ・ その他 <p>* 実施時期について（確認事項）</p>	4/16 わが家の防災マニュアル	
第8回 5/14(火)		5/14 児童生徒数等の資料 各小中学校の通学路資料	
第9回 6/25(火)		6/25 防災に係る専門家の意見 碩田校区の小中一貫教育	
第10回 7/30(火)		7/30 教育委員会事務局の受け止めについて	
第11回 9/2(月)			
第12回 10/1(火)		10/18 碩田中学校区小中一貫教育研究発表会	
第13回 10/29(火) 荷揚町小学校			
第14回 11/26(火) 中島小学校		○協議の取りまとめについて	・ 協議に必要な資料
第15回 12/17(火) 住吉小学校			

* 第12回までの会場：大分文化会館・第2小ホール 第13回以降の会場：各小学校体育館

3 候補地別の特徴 (10/1 第 12 回地域協議会の協議内容を元に作成)

	特長やアピールポイント	課題の対応策や必要な条件
<p>荷揚町小学校区 (荷揚町小学校地)</p>	<p>○防災について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家の意見には、通学途中の安全性が考察されていないことが気になる。 ・荷揚は周辺に公共の高層建築物があり、登下校中の避難にも活用できる。 ・他校区ならば津波避難タワーを設置し、収容能力をあげる必要がある。 ・海岸や川より離れた場所に建設することが子どもの命を救うことに繋がる。 ・中心市街地活性化計画等により、中心部は相当数の人口増が予想される。 ・大地震の場合、帰宅困難者が予想され、駅から遠くない地に施設が必要である。 <p>○地域コミュニティについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校がなくなる2箇所は、地域コミュニティが確保できる対応が必要である。 	<p>○敷地面積は、府内こどもルーム、市の立体駐車場、道路を隔てた公共用地が隣接しているので、これらを有効活用し、建物を多層階利用することで課題はクリアできる。</p> <p>○学校がなくなる2校区については、まちづくりの一環として小学校をどう考えるのか、市の他の部局も含めて協議を行いたい。</p> <p>○学校がなくなる2校区については、避難場所としても機能し得るような代替施設を確保する必要がある。</p>
<p>中島小学校区 (中島小学校地)</p>	<p>○通学環境について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区のほぼ中央部に位置し、通学の負担軽減ができる。 ・通学ルートが分散され、登下校時の安全確保ができる。 ・保護者、地域の人が学校行事に参加する場合でも、参加がし易い。 <p>○校地面積の設置基準について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一の敷地内で設置基準を満たす。 ・今後の将来推計にも対応できる。 <p>○防災面について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の校地に比べ特に懸念する点はなく、同じような状況にある。 <p>○小中一貫教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携型でも成果を挙げている。更に連携型の進化、向上が期待できる。 	<p>○防災対策は、津波の対応が重要になる。地震発生から津波到達までタイムラグがあり、この間に安全かつ迅速に避難できるかが重要になるのではないかと考えている。</p> <p>○地理的な関係で施設一体型小中一貫教育の運営は難しい。現時点で、施設一体型の必要性は特にないと考えている。</p> <p>○新設校を選定する上で、駐車場は不可欠な要因ではないと考えている。</p> <p>○仮設校舎等の設置が必要となり、建設工事中の対応が問題になるが、他の校区も同様であると考える。</p> <p>○小中一貫教育については、学力テストなどでも成果をあげている。連携型でも力を注げば成果が生まれることを裏付けている。</p>
<p>住吉小学校区 (碩田中学校地)</p>	<p>○まちづくりの観点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心部が開発で活性化しているが、197号線より北側の開発は今後見込めない。 ・若者が住みたい街へと変貌しなければ、自治会組織の衰退にも繋がる。 ・施設一体型小中一貫教育で、住んででも行きたい、行かせたい学校を創る。 ・賀来小中は反対する声もあったが、プラス面が大きく実績として表れている。 <p>○施設一体型小中一貫教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小1から中3までの成長を多くの先生で導き、小中の先生は関係が深まる。 ・保護者や地域は、地域に開かれた体育館や図書館等を利用し、関係が深まる。 ・碩田校区全体で学校を支えることが可能となり、誇れる地域の学校となる。 	<p>○通学距離や交通状態を見ると、低学年の対策が必要だと思う。碩田中学校地になれば、中学生も一緒に登下校をするので、安全は確保できるのではないかと考えている。</p> <p>○施設一体型小中一貫教育については、1000人を超える大規模校になることに不安があるというが、これは解決できる課題と捉えている。</p> <p>○放課後育成クラブの運営については、人数の多い他の学校も1校で運営しているので、運営上は問題がないと思う。</p> <p>○碩田中学校地を母体に、住吉小学校地も活用することで校区は議論を進めている。</p> <p>○碩田校区は何かの特化してアピールできるようなものが必要ではないかと考えている。</p> <p>○津波対策は、地域でまとまって訓練をしており、目標を持って頑張っている最中である。</p>

＜荷揚町小学校区＞

(1) 荷揚町小学校区の特長やアピールポイントについて

東日本大震災に対処する知恵を発揮する必要が我々に求められていると考えており、地震をコントロールすることはできないが、地震の被害を最小限にするための努力は可能なので、地震対策について十分なものをしてほしい。

専門家の意見は3校地のどこに新校舎を建てても「大差はない」との結論であるが、中差、小差はあるのではないかと思う。その中差、小差において、より多く子どもたちの命を救うことが必要ではないかと思うが、専門家の意見には通学途中の安全性が考察されていないことが一番気になる場所である。

学校にいる間は十分な施設等を造れば対応できるが、登下校中の安全性確保の面で危惧することから、どの校地に新設校が建設されることになっても、海岸寄りから通学される子どものために津波避難タワーを設置してほしい。荷揚に建設するのであれば公共の高層建築物が周辺にあり、登下校中の避難にも活用でき、そういう意味で荷揚であれば津波避難タワー建設の必要があまりないと思うが、もし他校区に立地する場合には、津波避難タワーの収容能力をあげる必要があると思う。なるべくなら海岸や川より離れた場所に建設することが子どもの命を救うことに繋がり、安全性に信頼がおける場所にしてほしいというのが多数の意見ではないかと思う。荷揚校区では他の校区に新設校が立地した場合、隣接校に入学したい方が何名かいると聞いているが、もし荷揚に立地されればそのまま荷揚に入学する可能性が強いと聞いているので、そういう意味で荷揚の優位性があるのではないかと思う。

今後は中心市街地活性化計画等が計画され、中心部は相当の人口増が予想される。また、大地震等になれば2万人超の帰宅困難者が考えられ、駅よりあまり遠くない地に施設を造っておく必要があり、そのような対応策が碩田中学校区の責務ではないかと思う。そういう意味で、荷揚町小学校区の優位性を感じている。

新設校が建設されない残りの2箇所には、現状のような地域コミュニティ活動ができることが保障される施設を十分に対応してもらいたい。全体として荷揚、中島、住吉それぞれの地域の方々が納得できるようなものにする必要があるのではないかと思う。

(2) 荷揚町小学校地に新設校を建設した場合の必要な対応策などについて

現在の荷揚町小学校地は7,375㎡だが、府内こどもルームや市の立体駐車場、道路を隔て公共の用地が隣接しているので、これらを有効活用し、さらに敷地内の建物を多層階利用すると十分に色々な施設ができ、敷地面積に関する問題も十分に校地内でクリアできるのではないかと思う。教育委員会は隣接地の買収等は考えていないとのことだが、公共用地の活用であれば他の部局との交渉次第ではないかと思う。交渉次第では他の公共用地を活用してコンパルホールのように、より多くの年代の方々を収容するような施設ができるのではないか。また、小1問題を解消するために、小学校に入る前の幼稚園からの一体化ということも考えてもよいのではないかと思う。そういうことができる学校も大いに地域住民の方、地域外の方にもアピールできる学校になろうかと思うし、中心部に勤務

される方にとっても、夜遅くまで保育あるいは児童の教育ができるようになれば、またアピールポイントになるのではないかと思う。

そういう中で課題としては、例えば荷揚町小学校地に新設校を建設した場合に、住吉校区、中島校区の地域住民の方々のことも当然考えなければならない。地域住民の方々にとって、現状以上であることがまず最低条件ではないかと思う。そのために現状の施設をそれなりに活用できる対策をとるためには、相当の予算が必要になってくると思う。1校区に学校ができ、残りの2校区において、予算執行が少ないというのであれば現状より悪化する校区が2校区できてくることになり、残り2校区の方々にとってはやはりそれは許されないことではないかと思うので、教育委員会だけではなく市役所の他の部局の方も含めて、今後の大きなまちづくりの一環として小学校をどう考えるのか、あるいは残りの2校区についてはどう考えるかということについて協議することを要望したいと思う。

< 主な意見 >

- 学校は地域コミュニティの核であるが、新設校以外の校区にはなくなるわけなので、代替するような施設をぜひ造ってほしい。また、併せて避難場所がなくなるとのことなので、避難場所としても機能し得るような代替施設を確保する必要がある。これは3校区共通なので、新設校以外の2校区についても対応策が必要である。
- 荷揚町小学校地では統合するには校地が狭すぎて、小学校の設置基準をクリアすることが不可能と思っていたが、荷揚校区の対応策の発表では、こどもルーム等の市の施設を教育委員会が買収し、荷揚町小学校の敷地にするとしていたが、教育委員会はどうか捉えているのか、見解があれば聞かせてほしい。
- 市有地を活用できないかとのことだが、現に利用している土地なので関係部局との協議が必要になり、かなりの時間を要することから困難である。
- 府内こどもルームや周辺設備を活用して校地に活用したいということだが、いわゆる「たられば」的な話で、今の段階では実現性が分からない。できるだけこのような議論は避けるべきだと思う。
- コミュニティの核となる学校施設が新設校以外ではなくなるとの意見だが、決してなくなることではなくて、碩田校区の中に1箇所だけ統合されて新たにできるという解釈でないと、今あるところにそれぞれ同じような形で残すというのは、予算も効率上から非常に難しい問題ではないかと思う。やはり新しい学校を核として新しいコミュニティを創るとの考え方に立つべきではないかと思う。
- 市有地を活用することであり、買収することではない。中心地の荷揚に統合校を造るのがベストと判断すれば、土地を確保すれば良いと理解している。また、屋内運動場は高層にした上で、屋内運動場としても屋外運動場と併せれば、十分対応できると考える。

＜中島小学校区＞

（１）中島小学校区の特長やアピールポイントについて

中島については、これまでに何回か特長やアピールポイントの話をしているので、主な点に絞って発表する。

1 点目として、中島が 3 校区のほぼ中央部に位置するということがいえると思う。今回の統合で多くの児童の通学距離が増えるということになるが、これは子どもたちへの負担という形で影響があり、子どもたちへの負担の軽減を最優先に場所を設定すべきであるという考え方で場所を選ぶとするならば、中島が新校地としてふさわしい場所であるといえると思う。それに関連して、中央部にあることから通学ルートが東西南北 4 方向に分散をされ、登下校時の交通安全を含めた安全の確保が必要で、安全の面からも望ましい場所であるといえると思う。また、保護者、地域の人が学校の色んな行事に参加するという場合でも、中央部にあることで参加がし易くなるのではないかとすることも考えられる。それから先日、防災の専門家の方から、防災の観点から色々場所の選定についての提言やアドバイ스가あったが、その中に子どもたちの通学環境、それから普段の生活、こういうものを大切に場所を選ぶべきだという話があり、こういう観点から場所を選ぶとすると、やはり中島ということになるのではないかと考える。

2 点目として、中島は校地面積が設置基準を満たしているということがいえる。しかも、中島小学校地は同一の敷地内で設置基準を満たすということで、将来の児童推計でも平成 31 年には 875 名との事務局の推計値があるのだが、これに対しても基準をクリアしている。3 点目として、防災面に関して中島も他の校地とほぼ同じような状況にあり、決して安全な場所であるとは言いきれないと思うが、中島は 3 校区のほぼ中央部に位置するため、避難場所としての学校までの距離が近く、また他の校地と比べて危険であるといった懸念する点はないと考えている。

また、一貫教育についても、中島の場合は先生方の熱意だとか子どもたちの努力、こういったものが相まって、これまで取り組んできた連携型教育でもって、非常に顕著な成果を挙げていると考えられる。今後、統合によって小中は 1 対 1 の体制ができることで更に連携型の進化、向上が期待できると考えている。

（２）中島小学校地に新設校を建設した場合に必要な対応策などについて

防災対策は津波の対応が重要になると考える。津波は地震発生から津波到達までタイムラグがあり、南海地震等であれば 1 時間強あることから、この間にいかに安全かつ迅速に避難できるかが非常に重要になるのではないと思う。このため、児童は避難訓練等を計画的に実施し、登下校中では地域防災会と連携し、地震ではいち早く周辺の避難ビルに子どもを連れて行くなど、地域住民と協力体制を作ることが必要と考える。

中島では地理的な関係で施設一体型小中一貫教育やその運営は難しいと考える。また、施設一体型と連携型との比較検討がまだ全く進んでいない中で、施設一体型の導入の考えは現時点では拙速であると言わざるを得ない。先般の小中一貫教育に関する講演会でも「教育の成果というのは、いわゆる型の違いということよりも、むしろやり方の問題だ」という話があったが、中島小では先生方の熱意や児童自身の努力も大いにあると思うが、連携型で顕著な成績をあげている。施設一体型の提案が出ているが、現時点で施設一体型の必

要性は特にないと中島校区は考える。

駐車場は数名の保護者や地域の人が所用で来るという場合は、校地の中にその程度の駐車場は確保できると思うが、数十台規模の駐車スペースが必要とのことであれば、それほど広い駐車場がある学校はないと考える。したがって、新設校を選定する上で、駐車場は不可欠な要因ではないと考えてよいのではないか。

中島校区に新設校が決まった場合では建設工事中の対応が問題になるかと思う。仮設校舎等の設置が必要と思うが、これはどの校地の場合でも同じ問題が出てくると思う。例えば碩田中学校地に新設する場合でも中学生の運動場がなくなるので、運動場を別に確保しなければならないとの問題が出てくるのではないか。

< 主な意見 >

- 小中一貫教育について、連携型で一定の成果が出ているということだが、例えば何年生の試験で成果が出ているとか、全国を対象としての成果とか、成果に関して何か基準みたいなものがあるのか教えてほしい。
- 今年度の全国学力テストが6年生と5年生であり、結果については定着度でクリアしており、全国平均を上回っている。また、2年生から4年生まで国語と算数に教科を決めて実施しており、その結果も学力レベルの数値、学力の解答率などでかなり成果をあげていると聞いている。連携型でも力を注げば、このような成果が生まれることを裏付けている。

<住吉小学校区>

(1) 住吉小学校区の特長やアピールポイントについて

協議会で議論していることは、今後の碩田校区の学校の発展はもとより、学校を中心としたまち全体の活力にも結びついていなければならないと考えるので、施設一体型小中一貫教育校の新設を希望する。

大分駅周辺を中心部が開発で活性化へと変わってきている反面、197号線よりも北側の開発や予算の投入が今後見込めない中で今回の適正配置は今後50年の碩田校区で一番大きな予算の投入ではないかと考える。これを利用して若者が住みたいまちへと変貌しなければ、高齢化が進む地域としては自治会組織の衰退にも繋がりがかねない。また、碩田校区に住みながら私立や他の学校へ通う子どもが多くなったり、大道小や春日町小等も校舎が新しくなり、校舎が新しいからといってそれだけで碩田校区の新設校に通わせようという保護者は少ないと思う。

そのような背景から、碩田校区に施設一体型小中一貫教育で、教育の観点から若者に興味を持ってもらい、住んででも行きたい学校、行かせたい学校を創ることが、今後子孫から「チャンスがこの世代にあったのに何してたんだ」と言われたいための唯一の施策と考える。賀来小中は地価が上がるほど学校人気上がり、住んででも行きたい学校へとになっている。一時期は小中一貫教育に反対する声もあったが、今は「子どもたちが落ち着いた」、「子どもたちが優しくなった」などのプラス面が大きく実績として表れている。だからこそ施設一体型小中一貫教育のチャンスがあるのに、「大変だからやらない」、「分からないから今はやめておく」とは子孫には言えないと思う。碩田校区は学校を中心に、まち全体も日本に、世界に誇れるよう挑戦することが、協議会のやるべき責務ではないかと思う。今こそ4校で、施設一体型小中一貫教育で新たなスタートを切ることが、まち全体の活性化にもなるのと考えている。

職員室が1つになり先生が連携して、小1から中3までの成長を多くの先生で導き、見守ることができるのは施設一体型小中一貫教育以外にない。そこに寄与するのがやはり広い校地での一体型校舎の建設ではないか。先生は一体型で関係を深め、保護者や地域も公民館機能を備えた体育館や地域に開かれた図書館等を利用し、保護者、地域が関係を深め、碩田校区全体で学校を支えることが可能となり、誇れる地域の学校となるのではないかと考える。

(2) 碩田中学校地に新設校を建設した場合の必要な対応策などについて

碩田中学校を中心に円を書くと、碩田中学校区でいえば碩田中学校が中心だが、子どもたちの通学距離や交通状態を見ると、荷揚町の中央町などから40m道路を超えて低学年の子どもたちが通うということでは、やはり低学年の対策が必要だと思う。登下校時に児童が自分の身を自分でいかに守るかということは、やはり校区としても考えていく必要がある。なお、荷揚校区や中島校区を見る限りでは、見守り活動が小学校に対してしっかりできていると聞いているので、そういう対策として道筋はできているのではなかろうかと考えている。もし、碩田中学校地になった場合では、中学生も一緒に登下校をするので、安全は確保できるのではないかと考えている。

小中一貫教育については、1000人を超えるという大規模校に対して不安があるとい

うこともあるが、施設一体型に対しては問題とは捉えていない。これは解決できる課題として捉えているので、教育委員会、地域も含めて、保護者も協力しながら先生方を中心に良い学校を創れるのではないかと思う。

放課後育成クラブの運営については、新設校の1箇所にとまるということになるが、人数の多い他の学校も1校で育成クラブを運営しているので、運営上では問題がないと思う。ただし、朝は集団登校するなどして解決できると思うが、夕方はどのように子どもを帰宅させるのが課題となるので、例えば中央町、荷揚町の遠いところに関して、低学年を何時に帰宅させるというプログラムなどの対策が必要と思う。

<主な意見>

- 碩田中学校地を母体にして住吉小学校地も活用するとのことで、住吉校区としては論議を進めている。碩田中学校の中に小学校を造れば、小学校低学年はそこで運動もでき、授業は今のままの小学校ででき、後々は住吉小学校を運動場に使うだとか、色々な面で十分に進めていけると思う。
- 碩田中学校地に施設一体型で建設する場合、碩田中学校地と住吉小学校地を併せて設置基準とするのかを確認したい。碩田中学校地に建てるとのことであれば、設置基準は今の碩田中学校地での基準とするのか、住吉小学校地と碩田中学校地で設置基準とするのか。両方一緒にまとめて設置基準にして校舎の建築場所を決めることを教育委員会は考えているのかどうかは、大きな判断材料になると思う。
- 小学校は小学校の設置基準があり、中学校は中学校の設置基準がある。碩田中学校地の面積は中学校の設置基準も小学校の設置基準も両方の基準を十分にクリアしている。例えば碩田中学校地に小学校と中学校の施設一体型になったとしても、双方の基準面積をクリアしていることになる。
- 特長やアピールポイントで、地域開発と若者へのアピールとのことだが、中島や住吉校区は開発するにしても、広い土地があまり空いていないと思う。また、若者のターゲットはどの辺りを考えているのか教えてほしい。
- 転勤等で県外から転入する時に、賀来小中学校が良いとのことに移り住む方がいると聞いている。そのように碩田校区が良いと言わせるように、何か特化してアピールできるような地域性、学校性を持てれば良いのではないかと思う。ターゲットは、そういう風に子どもをここの学校に通わせたいという保護者が対象である。
- 中島校区の住民は、海の方に向かっていくことに対し危惧しているので、津波対策について何か対応策があれば教えてほしい。また、施設一体型は本当に良いとのことだが、賀来小中学校は1小1中であり、照葉小中学校は人工島に建てた学校なので、文化や地域性が違う。実際に子どもたちは沢山の課題を持っているので文化や環境の違う3校が集まった時の課題解決の方策はあるのか教えてほしい。
- 津波対策については、地域としてまとまって防災の訓練をしており、目標を持って頑張っている最中である。また、課題解決の方策としては、やれないということはまず思わないので、絶対にやれるということで何事にも臨むので、私は子どもはやれると思う。大人の頭でやれないと思っているから、それを見て子どもが学ぶのであって、大人がやれると思って自信を持って挑んでいけば、子どもはいくらでもついてくると思う。